



package through pattern

- [package](#) (3 ページ)
- [Appcommon パッケージ](#) (5 ページ)
- [package callsetup](#) (6 ページ)
- [package language](#) (7 ページ)
- [package persistent](#) (9 ページ)
- [パッケージ session_xwork](#) (11 ページ)
- [パラメータ](#) (13 ページ)
- [param access-method](#) (17 ページ)
- [param account-id-method](#) (18 ページ)
- [param accounting enable](#) (20 ページ)
- [param accounting-list](#) (21 ページ)
- [param authen-list](#) (23 ページ)
- [param authen-method](#) (25 ページ)
- [param authentication enable](#) (27 ページ)
- [param convert-discpi-after-connect](#) (28 ページ)
- [param dsn-script](#) (30 ページ)
- [param event-log](#) (32 ページ)
- [param fax-dtmf](#) (35 ページ)
- [param global-password](#) (37 ページ)
- [param language](#) (38 ページ)
- [param mail-script](#) (40 ページ)
- [パラメータ モード](#) (42 ページ)
- [param pin-len](#) (45 ページ)
- [param prompt](#) (47 ページ)
- [param redirect-number](#) (48 ページ)
- [param reroutemode](#) (50 ページ)
- [param retry-count](#) (53 ページ)
- [param security](#) (55 ページ)
- [param uid-len](#) (58 ページ)
- [param voice-dtmf](#) (60 ページ)

- [param warning-time](#) (62 ページ)
- [パラメータスペース](#) (64 ページ)
- [paramspace appcommon event-log](#) (66 ページ)
- [paramspace appcommon security](#) (68 ページ)
- [paramspace callsetup mode](#) (70 ページ)
- [paramspace callsetup reroutemode](#) (72 ページ)
- [paramspace language](#) (74 ページ)
- [paramspace session_xwork convert-discpi-after-connect](#) (76 ページ)
- [パススルーコンテンツ](#) (78 ページ)
- [パススルーヘッダー](#) (80 ページ)
- [passthru-hdr](#) (82 ページ)
- [passthru-hdr-unsupp](#) (84 ページ)
- [パターン](#) (86 ページ)

package

アプリケーションパラメータ設定モードに入り、パッケージを読み込んで設定するには、アプリケーション設定モードで **パッケージ** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式はありません。

パッケージ **パッケージ名** **位置**
いいえ **パッケージ** **パッケージ名**

構文の説明

パッケージ名	パッケージを識別する名前です。
位置	パッケージのディレクトリとファイル名 (URL 形式)。たとえば、フラッシュメモリ (flash:filename)、TFTP (tftp://../filename)、HTTP サーバ (http://../filename) は有効なロケーションです。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

アプリケーション設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用してアプリケーションパラメータ構成モードに入り、パッケージをロードして構成します。パッケージは、アプリケーションまたは他のパッケージによって呼び出される機能を提供する、リンク可能な C または Tcl 関数のセットです。これらのパッケージはスタンドアロンではありません。例えば、デビットカードのアプリケーションでは、英語やフランス語などの複数言語の翻訳パッケージを使用する場合があります。これらの言語翻訳パッケージは、他のアプリケーションでも使用できます。使用するアプリケーションごとにパッケージを変更する必要はありません。

システムで利用可能なパッケージは、インストールしたスクリプト、アプリケーション、およびパッケージによって異なります。ソフトウェアには一連の組み込みパッケージが付属しています。追加のパッケージは **Tcl パッケージ** コマンドを使用してロードできます。その後、アプリケーション設定モードで **パッケージ** コマンドを使用して、これらのパッケージに含まれるパラメータにアクセスすることができます。

例

次の例では、フランス語の翻訳パッケージがロードされています。

```
Router(config-app)# package frlang http://server-1/language_translate.tcl
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーションのためにロードする Tcl または VoiceXML ドキュメントの場所を指定します。
パッケージappcommon	組み込みの共通音声アプリケーションパッケージのパラメータを設定します。
パッケージcallsetup	組み込みのコール セットアップ パッケージのパラメータを設定します。
パッケージ言語	IVR アプリケーションで使用する外部 Tcl 言語モジュールをロードします。
パッケージ session_xwork	組み込みの session_xwork パッケージでパラメータを設定します。

Appcommon パッケージ

組み込みの共通音声アプリケーション パッケージのパラメータを設定するには、アプリケーション設定モードで **パッケージappcommon** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式はありません。

パッケージアプリ共通

構文の説明	引数やキーワードはない
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はない
コマンド モード	アプリケーション設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、共通の音声アプリケーションパッケージパラメータを設定します。このコマンドを入力した後、**param** コマンドを使用して個々のパラメータを設定します。

例

次の例では、**paramsecuritytrusted** コマンドを使用して、VoiceXML アプリケーションのセキュリティレベルを「信頼できる」に設定する方法を示します。これにより、自動番号認識 (ANI) がブロックされることはありません。

```
application
package appcommon
param security trusted
```

関連コマンド	コマンド	説明
	パッケージ	パッケージの読み込みと設定を行うために、アプリケーションパラメータ設定モードを開始します。
	packagecallsetup	組み込みのコール セットアップ パッケージのパラメータを設定します。
	パッケージ言語	IVR アプリケーションで使用する外部 Tcl 言語モジュールをロードします。
	パッケージ session_xwork	組み込みの session_xwork パッケージのパラメータを設定します。

package callsetup

内蔵の通話セットアップパッケージのパラメータを設定するには、アプリケーション設定モードで **パッケージcallsetup** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式はありません。

パッケージ通話セットアップ

コマンド デフォルト 引数およびキーワードはありません

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード アプリケーション設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、組み込みのコールセットアップパッケージのパラメータを設定します。Callsetup パッケージは、アプリケーションや他のパッケージにより、発信コール レッグを配置し、着信コール レッグと相互作用するために使用されます。コールセットアップ このコマンドを入力した後、**param** コマンドを使用して個々のパラメータを設定します。

例

```
The following example shows the call transfer mode set to redirect:
application
package callsetup
param mode redirect
```

関連コマンド	コマンド	説明
	パッケージ	パッケージの読み込みと設定を行うために、アプリケーションパラメータ設定モードに入ります。
	パッケージ appcommon	組み込みの共通音声アプリケーションパッケージのパラメータを設定します。
	パッケージ言語	IVR アプリケーションで使用する外部 Tcl 言語モジュールをロードします。
	packagesession_xwork	組み込みの session_xwork パッケージでパラメータを設定します。

package language

自動音声応答 (IVR) アプリケーションで使用する外部のツールコマンド言語 (Tcl) 言語モジュールをロードするには、アプリケーション設定モードで **packagelanguage** コマンドを使用します。コマンドに **no** 形式はありません。

パッケージ **language** プレフィックス **url**

構文の説明	プレフィックス	言語の 2 文字のプレフィックス。たとえば、英語の場合は「 en 」、ロシア語の場合は「 ru 」などです。
	URL	モジュールの場所。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード アプリケーション設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドは、 calllanguagevoice コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン このコマンドを使用して、アプリケーションまたは他のパッケージで使用する言語パッケージをロードします。組み込みの言語は英語 (**en**)、中国語 (**ch**)、およびスペイン語 (**sp**) です。「**en**」、「**ch**」、または「**sp**」を指定した場合では、新しい Tcl モジュールがビルトインの言語機能に置き換わります。新しい Tcl モジュールを追加する場合、言語を識別するための独自のプレフィックスを作成します。新しい言語を設定して読み込むと、任意の上位層アプリケーション (TCL IVR) がその言語を使用できるようになります。

言語パッケージを読み込んだ後、**paramlanguage** または **paramspacelanguage** コマンドを使用して、新しい言語パッケージを使用するようにアプリケーションまたは他のパッケージを設定できます。

例

次の例では、ロシア語 (**ru**) を Tcl モジュールとして追加し、プロンプトにロシア語を使用するようにデビットカードアプリケーションを設定します:

```
application
package language ru tftp://box/unix/scripts/multi-lang/ru_translate.tcl
service debitcard tftp://server-1/tftpboot/scripts/app_debitcard.2.0.2.8.tcl
param language ru
```

関連コマンド

コマンド	説明
パッケージ	パッケージの読み込みと設定を行うために、アプリケーションパラメータ設定モードに入ります。
パッケージappcommon	組み込みの共通音声アプリケーション パッケージのパラメータを設定します。
パッケージcallsetup	組み込みのコール セットアップ パッケージのパラメータを設定します。
パッケージsession_xwork	組み込みの session_xwork パッケージのパラメータを設定します。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
paramspacelanguagelocation	IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。

package persistent

特定のメディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) プロファイルを使用して、多周波 (MF) トーン Channel-associated Signaling (CAS) エンドポイント タイプの持続的イベントをレポートする際に使用されるパッケージタイプを設定するには、MGCPプロファイル設定モードで**packagepersistent** コマンドを使用します。永続ステータスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パッケージ永続的パッケージ名
いいえパッケージ永続的パッケージ名

構文の説明	<i>package-name</i> パッケージ名。有効な名前は、msパッケージとmtパッケージです。
-------	--

コマンド デフォルト ms-package

コマンド モード MGCP プロファイルの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、MGCP プロファイルの値を設定する際に使用されます。

このコマンドは、音声ポート設定モードの **dial-typep** コマンドで設定されたゲートウェイ音声ポートのMFトランクでのみ使用されます。同じ永続的イベントを異なる MGCP パッケージで定義できるため、場合によっては、このコマンドを使用して、この MGCP プロファイルのエンドポイントのコールエージェントに永続的イベントを報告するときにどのパッケージを使用するかをゲートウェイに通知する必要があります。たとえば、T1 が MF トランクとして設定されている場合でも、MF トランクに適用される MGCP パッケージは複数存在します。ans (通話応答) イベントは、通話エージェント通知の適切なパッケージにマッピングする必要があります。このコマンドにより、異なる CAS プロトコルに対して異なる T1 を設定することができます。

MS パッケージは、RFC 3064 (MGCP) に示されているように、ウィンクスタートまたはグラウンドスタートのシグナリングを持つ特定の PBX 直通内線ダイヤル (DID) および外線直通ダイヤル (DOD) トランクで使用されます (MGCP CAS パッケージ)。

MT パッケージは MS パッケージのサブセットであり、「*PacketCable PSTN Gateway Call Signaling Protocol* 仕様」に記載されているように、トランキング ゲートウェイ エンドポイント上の MF トランクの終端で特定のオペレータ サービスで使用されます。(TGCP)

PKT-SP-TGCP-D02-991028、1999年12月1日。

例

次の例では、MT パッケージのイベントの永続性を有効にします。

```
Router(config)# mgcp profile nyc-ca  
Router(config-mgcp-profile)# package persistent mt-package
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcp プロファイル	1 つまたは複数のエンドポイントに関連付けられた MGCP プロファイルを作成および構成するか、またはデフォルトのプロファイルを構成するための MGCP プロファイルモードを開始します。

パッケージ session_xwork

組み込みの session_xwork パッケージのパラメータを設定するには、アプリケーション設定モードで **パッケージsession_xwork** コマンドを使用します。

パッケージ session_xwork

構文の説明

引数やキーワードはない

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド デフォルト

アプリケーション設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、組み込みのセッション x_work パッケージのパラメータを設定します。このコマンドを入力した後、**param** コマンドを使用して個々のパラメータを設定します。

たとえば、このコマンドを **paramdefaultdisc-prog-ind-at-connect** コマンドと一緒に使用して、通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行インジケータを持つ DISCONNECT メッセージを通常の DISCONNECT メッセージに変換します。

例

次の例では、通話がアクティブ状態の場合に、プログレスインジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定されている DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するようにシステムを設定する方法を示します。

```
application
package session_xwork
param default disc-prog-ind-at-connect
```

関連コマンド

コマンド	説明
パッケージ	パッケージの読み込みと設定を行うために、アプリケーションパラメータ設定モードに入ります。
パッケージappcommon	組み込みの共通音声アプリケーション パッケージのパラメータを設定します。
packagecallsetup	組み込みのコールセットアップパッケージのパラメータを設定します。
packagelanguage	自動音声応答 (IVR) アプリケーションで使用する外部ツールコマンド言語 (Tcl) 言語モジュールをロードします。

コマンド	説明
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。

パラメータ

ゲートウェイ上のパッケージまたはサービス(アプリケーション)のパラメータをロードして設定するには、アプリケーション設定モードで **param** コマンドを使用します。パラメータをデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

param パラメータ名[パラメータ最大再試行回数 | パラメータパスワード | パラメータパスワードプロンプトファイル名 | パラメータユーザプロンプトファイル名 | パラメータ **term-digit** | パラメータ **abort-digit** | パラメータ **max-digits**]

いいえパラメータパラメータ名

構文の説明

パラメータ名	パラメータの名前です。
param max-retries	(任意) アカウントまたはパスワードの再入力の実行回数。値の範囲は 0-10 で、既定値は 0 です。
param passwd	(任意) 認証用の事前定義パスワードを定義する文字列。
param passwd-prompt filename	(オプション) パスワード入力を要求するためのアナウンス URL です。ファイル名は、パスワードプロンプトの再生に使用される音声ファイル名の名前と場所を定義します。
param user-prompt filename	(オプション) 承認コードユーザー名を要求するためのアナウンス URL です。ファイル名は、ユーザー名プロンプトの再生に使用される音声ファイル名の名前と場所を定義します。
param term-digit	ユーザ名またはパスワードの入力終了時の桁です。
param abort-digit	ユーザ名またはパスワードの入力を中止するための桁です。既定値は * です。
param max-digits	ユーザ名またはパスワードの最大桁数です。有効な値の範囲: 1 - 32。デフォルト値は 32 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

アプリケーション設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

リリース	変更
15.1(3)T	このコマンドは変更されました。キーワードと引数が追加されました: <code>param max-retries</code> , <code>param passwd</code> , <code>param passwd-prompt filename</code> , <code>param user-prompt filename</code> , <code>param term-digit</code> , <code>param max-digit</code>

使用上のガイドライン

パッケージまたはサービスのパラメータを設定するには、このコマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで使します。パッケージは、アプリケーションまたは他のパッケージによって呼び出される機能を提供する、リンク可能なCまたはTcl関数のセットです。サービスはスタンドアロンアプリケーションです。

構成に使用できるパラメータは、ゲートウェイにロードされているパッケージまたはサービスによって異なります。サービスまたはパッケージの **paramregister** Tcl コマンドは、パラメータを登録し、説明とデフォルト値を提供し、CLIを使用してパラメータを設定できるようにします。 **paramregister** コマンドは、サービスまたはパッケージがロードまたは定義されるたびに、 **packageprovide**などのコマンドとともに実行され、構成されたモジュールとその関連スクリプトの機能を登録します。サービスまたはパッケージのTclスクリプトを構成してロードし、パラメータを構成するためにパッケージをロードする必要があります。詳細は、*Tcl IVR API バージョン 2.0 プログラミングガイド*を参照してください。

パッケージまたはサービスがゲートウェイで定義されている場合、このコマンドを使用すると、そのパッケージまたはサービスのパラメータが構成で利用できるようになります。別のパラメータに対して、追加の引数とキーワードを使用できます。利用可能なパラメータの一覧を表示するには、 **param ?**を入力してください。

アプリケーションまたはパッケージが同じパラメータ名を使用することによる問題を回避するために、パラメータネームスペース または パラメータスペース コンセプトが導入されました。サービスまたはパッケージがゲートウェイで定義されると、そのパラメータ名前空間が自動的に定義されます。これは、サービスまたはパッケージのローカルパラメータスペース、または「**myparameterspace**」と呼ばれます。このコマンドを使用してサービスまたはパッケージのパラメータを構成する場合、構成に使用できるパラメータはローカルパラメータスペースに含まれるパラメータです。別のパラメータスペースにあるパラメータ定義を使用する場合は、 **paramspaceparameter-namespace** コマンドを使用して、パッケージのパラメータを別のパラメータスペースにマッピングすることができます。これにより、そのパッケージは、ローカルパラメータスペースに加えて、新しいパラメータスペースで見つかったパラメータ定義を使用することができます。

Cisco Unified Communication Manager Express 8.5 以降のバージョンでは、このコマンドを使用して、強制認証コード (FAC) でパッケージを認証するためのユーザ名とパスワードのパラメータを定義します。

Parampasswd キーワードを使用して事前に定義されたパスワードが入力されると、発信者はパスワードを入力する必要がなくなります。 **user-prompt** が発信者に認証のための有効なユーザ名 (桁数) を入力するよう要求する音声プロンプトを再生するには、ファイル名を定義する必要があります。同様に、 **passwd-prompt** のファイル名を定義して、発信者に認証のための有効なパスワード (数字) の入力を要求する音声プロンプトを再生する必要があります。

例

次の例では、httpios パッケージのパラメータを設定する方法を示します:

```
application
package httpios
param paramA value4
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoice	音声アプリケーションの名前を定義し、このアプリケーションのためにロードする Tcl または VoiceXML ドキュメントの場所を指定します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの暗証番号 (PIN) の文字数を指定します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramセキュリティ	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramspace	アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。

コマンド	説明
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param access-method

指定アプリケーションに2段階ダイヤルのアクセス方法を指定するには、アプリケーションパラメータ設定モードで **paramaccess-method** コマンドを使用します。このコマンドの値をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータアクセス方法 {**prompt-user** | **redialer**}
 いいえパラメータアクセス方法

構文の説明

ユーザプロンプト	着信POTSダイヤルピアにDIDが設定されていないことを指定し、そして、着信POTSダイヤルピアのTclスクリプトが2段階ダイヤリングに使用されることを指定します。
リダイヤル	着信POTSダイヤルピアにDIDが設定されていないことを指定し、そして、リダイヤルデバイスが2段階ダイヤリングに使用されることを指定します。

コマンド デフォルト

ユーザへのプロンプト (DID がダイヤルピアで設定されていない場合)

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoiceaccess-method に代わるものとして導入されました。

使用上のガイドライン

POTS ダイヤルピアで DID が無効になっている場合、**paramaccess-method** コマンドを使用して 2 ステージダイヤリングのアクセス方法を指定します。

例

次の例では、app_libretto_onramp9 IVR アプリケーションの 2 ステージダイヤリングのアクセス方法として、prompt-user を指定しています。

```
application
service app_libretto_onramp9 tftp://server-1/tftpboot/scripts
param access-method prompt-user
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceaccess-method	指定アプリケーションの 2 ステージダイヤルのアクセス方法を指定します。

param account-id-method

特定のメソッドを使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定するには、**パラメータアカウントIDメソッド**を使用します。**a15>**アプリケーションパラメータ設定モードでコマンドを使用します。このアカウント識別子の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータアカウント ID メソッド {none | ani | dnis | gateway}

いいえ**パラメータアカウント ID メソッド** {none | ani | dnis | gateway}

構文の説明

なし	アカウント識別子が空です。これはデフォルトです。
ani	アカウント識別子は発信側の電話番号です (自動番号識別 (ANI))。
dnis	アカウント識別子は、ダイヤルされた側の電話番号です (ダイヤル番号識別サービス、または DNIS)。
ゲートウェイ	アカウント識別子は、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前で、次の形式で表示されます: router-name.domain-name.

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoiceaccount-id-method に代わるものとして導入されました。

使用上のガイドライン

オンランプアプリケーションがファックスを電子メールに変換するとき、電子メールには **x-account-id** と呼ばれるフィールドが含まれます。これは、会計または認証に使用できます。**x-account-id** フィールドには、このコマンドの結果として提供される情報を含むことができます。例えば、発信側の電話番号 (**発信者番号**)、着信側の電話番号 (**着信者番号**)、またはゲートウェイ (**gateway**) の名前を指定します。

例

次の例では、ファックス検出 IVR アプリケーションのアカウント識別子を、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前に設定しています。

```
application
service fax_detect flash:app_fax_detect.2.1.2.2.tcl
param account-id-method gateway
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント ID を割り当てるように、ファックス検出 IVR アプリケーションを設定します。
param	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramリルートモード	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramセキュリティ	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param accounting enable

ツールコマンド言語 (TCL) アプリケーションの認証、認可、およびアカウントティング (AAA) を有効にするには、**paramaccountingenable** コマンドをアプリケーション設定モードで使用します。TCL アプリケーションのアカウントティングを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータ **accounting** 有効にする
いいえパラメータ **accounting** 有効にする

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

アプリケーション設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoiceaccountingenable コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

AAA 課金方法リストが **aaaaccounting** コマンドと **mmpipaaamethodfaxaccounting** コマンドを使用して定義されている場合、このコマンドは AAA 課金サービスを有効にします。

このコマンドは、オフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

例

次の例では、発信のストアアンドフォワードファックスで使用する AAA アカウントティングを有効にします。

```
application
service app_libretto_onramp9 tftp://server-1/tftpboot/scripts/
param accounting enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
mmpipaaamethodfaxaccounting	ファックスの蓄積転送による AAA 認証に使用される方式リストの名前を定義します。

param accounting-list

音声機能カード (VFC) の FAX 蓄積転送による認証、認可、会計 (AAA) に使用される、アカウント方式リストの名前を定義するには、**アプリケーション設定モード**で**paramaccounting list**コマンドを使用します。アカウント方式リストの定義を解除するには、このコマンドの**no**形式を使用します。

パラメータ **accounting-list** メソッドリスト名
 言い換えパラメータ **accounting-list** メソッドリスト名

構文の説明	メソッドリスト名	ストアアンドフォワードファックスと共に使用される会計方法のリストの名前付けに使用される文字列。
コマンド デフォルト	AAA 会計方式リストが定義されていません	
コマンド モード	アプリケーション設定	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	paramaccounting-list コマンドが導入され、 callapplicationvoiceaccounting-list コマンドを置き換えるために

使用上のガイドライン このコマンドは、FAX のストアアンドフォワードで使用される AAA 会計方式リストの名前を定義します。蓄積転送 FAX に提供される課金サービスのタイプを定義するメソッドリスト自体は、**AAA課金** コマンドを使用して定義します。標準の AAA (各定義済みの方式リストが特定のインターフェイスおよび回線に適用できる) とは異なり、ファックスの蓄積転送で使用される AAA 会計方式リストはグローバルに適用されます。

アカウント方式リストが定義されたら、**mmoipAAA受け取り課金有効化** コマンドを使用してください。

このコマンドは、VFC のオンランプおよびオフランプのストアアンドフォワードのファックス機能の両方に適用されます。このコマンドはモデムカードでは使用されません。

例

次に、ストアアンドフォワードファックスで使用される AAA 会計方式リスト「smith」を定義する例を示します。

```
aaa new-model
application
service app_libretto_onramp9 tftp://server-1/tftpboot/scripts/
param accounting-list smith
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
paramaccountingenable	TCL アプリケーションの AAA 会計を有効にします。
mmpaaaareceive-accountingenable	オンランプ AAA アカウンティング サービスを有効にします。

param authen-list

ツールコマンド言語 (TCL) アプリケーションの認証方法リストの名前を指定するには、**paramauthenlist** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使用します。TCL アプリケーションの認証方法リストを無効にするには、**no** 形式で指定します。

paramauthen-list *method-list-name*

いいえパラメータ **authen-list** メソッドリスト名

構文の説明	メソッドリスト名	T.38 ファックスリレーおよび T.37 蓄積転送で使用される認証方法のリストの名前に使用される文字列。
-------	----------	---

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード アプリケーション設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドは、 call アプリケーション voiceparamauthen-list コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、音声カードの FAX アプリケーションで使用される AAA 認証、許可、および課金方式リストの名前を定義します。蓄積転送 FAX に提供される認証サービスのタイプを定義するメソッドリスト自体は、**AAAauthentication** コマンドを使用して定義します。標準の AAA (定義された各方式リストを特定のインターフェイスおよび回線に適用できる) とは異なり、FAX アプリケーションで使用される AAA 方式リストはグローバルに適用されます。

認証方法リストが定義されたら、**paramauthenticationenable** コマンドを使用して有効にします。

例 次に、T.38 ファックス リレーおよび T.37 ストアアンドフォワード ファックスで使用される AAA 認証方式リスト (「fax」) を定義する例を示します。

```
application
service app_libretto_onramp9 tftp://server-1/tftpboot/scripts/
param authen-list fax
param authentication enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	aaaauthentication	課金またはセキュリティ目的で、要求されたサービスの AAA 課金を有効にします。

コマンド	説明
paramauthen-method	TCL アプリケーションの認証方法を指定します。
paramauthenticationenable	TCL アプリケーションの AAA 認証サービスを有効にします。

param authen-method

Tool Command Language (Tcl) アプリケーションの認証、許可、および会計 (AAA) 認証方法を指定するには、**param authen-method** コマンドをアプリケーション設定モードで入力します。Tcl アプリケーションの認証方法を無効にするには、**no** 形式で指定します。

パラメータ認証方法 {**prompt-user** | **ani** | **dnis** | **gateway** | **redialer-id** | **redialer-dnis**}

いいえパラメータ認証方法 {**prompt-user** | **ani** | **dnis** | **gateway** | **redialer-id** | **redialer-dnis**}

構文の説明

ユーザにプロンプトを表示する	ユーザは Tcl アプリケーション アカウント ID の入力を求められます。
ani	発信側の電話番号 (自動番号識別または ANI) は、Tcl アプリケーション アカウント識別子として使用されます。
dnis	着信側の電話番号 (ダイヤル番号識別サービス または DNIS) は、Tcl アプリケーション アカウント識別子として使用されます。
ゲートウェイ	ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前が Tcl アプリケーション アカウント識別子として使用され、次の形式で表示されます: ルーター名.ドメイン名。
redialerid	外部再ダイヤル デバイスから返されるアカウント文字列は、Tcl アプリケーション アカウント識別子として使用されます。この場合、リダイヤル ID はリダイヤルシリアル番号またはリダイヤルアカウント番号になります。
redialerdnis	リダイヤルデバイスが存在する場合、着信側の電話番号 (ダイヤル番号識別サービスまたは DNIS) は、リダイヤルによって取得される Tcl アプリケーション アカウント識別子として使用されます。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

アプリケーション設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、アプリケーション構成モードの call applicationvoiceauthen-Method コマンドに代わるものとして導入されました。

使用上のガイドライン

通常、簡易ユーザ認証に AAA が使用される場合、AAA は認証のユーザプロファイルで定義されたユーザ名情報を使用します。T.37 ストアアンドフォワード FAX および T.38 リアルタイム

FAX では、ANI、DNIS、ゲートウェイ ID、リダイヤル ID、またはリダイヤル DNIS を認証用のユーザの識別に使用することを指定できます。

例

次の例では、ホスト名とドメイン名から取得したルーター固有の名前を、`app_libretto_onramp9` Tcl アプリケーションの Tcl アプリケーション アカウント識別子として設定します。

```
application
service app_libretto_onramp9 tftp://server-1/tftpboot/scripts/
param authen-method gateway
```

関連コマンド

コマンド	説明
param 認証有効化	Tcl アプリケーションの AAA 認証サービスを有効にします。

param authentication enable

ツールコマンド言語 (TCL) アプリケーションの認証、認可、および課金 (AAA) サービスを有効にするには、アプリケーション設定モードで **paramauthentication enable** コマンドを使用します。TCL アプリケーションの認証を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

param認証enable

いいえパラメータ 認証enable

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

アプリケーション設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoiceauthenticationenable コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

AAA認証方法リストが **aaaauthentication** コマンドと **paramauthen-list** コマンドを使用して定義されている場合、このコマンドはTCLアプリケーションのAAA認証サービスを有効にします。

例

次の例では、発信の蓄積転送ファックスによる認証方式リスト(「fax」と呼ばれる)のAAA 認証を有効にします。

```
application
service app_libretto_onramp9 tftp://server-1/tftpboot/scripts/
param authen-list fax
param authentication enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaauthentication	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
paramauthen-list	ツールコマンド言語 (TCL) アプリケーションの認証方法リストの名前を指定します。
paramauthen-method	TCL アプリケーションの認証方法を指定します。

param convert-discpi-after-connect

通話がアクティブ状態の場合に、PROG_INBAND(PI=8)に設定されたプログレスインジケータの DISCONNECT メッセージを通常の DISCONNECT メッセージに変換することを有効または無効にするには、パラメータ **convert-discpi-after-connect** コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで使します。このパラメータを既定値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使します。

パラメータ **convert-discpi-after-connect** {有効にする | 無効にする}
 いいえパラメータ **convert-discpi-after-connect** {enable | disable}

構文の説明

enable	通話がアクティブ状態のときに、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定されている DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換します。
無効にする	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータと共に、DISCONNECT メッセージに戻ります。

コマンド デフォルト

Enabled

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoicedefaultdisc-prog-ind-at-connect コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

通話がアクティブ状態でない場合、このコマンドは何の効果もありません。このコマンドは、**session_xwork** パッケージで利用できます。パッケージにこのパラメータを設定する場合、最初にコマンド **パッケージsessionx_work** を使用する必要があります。

サービスにこのパラメータを設定する場合、次のコマンドを使します。

サービス名URL

paramspacesession_xworkconvert-discpi-after-connect

例

次の例では、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定されている状態で、DISCONNECT メッセージに対して変換が有効になっています。

```
application
package session_xwork
param convert-discpi-after-connect enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicedefaultdisc-prog-ind-at-connect	通話がアクティブ状態の場合、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定されている DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換します。
param	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの暗証番号 (PIN) の文字数を指定します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定されたアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramsecurity	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param dsn-script

オフランプ配信状況通知 (DSN) およびメッセージ処理通知 (MDN) のメールメッセージの通話をオフランプメールアプリケーションが引き渡す先の VoiceXML アプリケーションを指定するには、**パラメータ dsnscript** コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで使用できます。アプリケーションを削除するには、**no** 形式でこのコマンドを使用します。

パラメータ dsn-script アプリケーション名
いいえパラメータ dsn-script アプリケーション名

構文の説明	アプリケーション名	宛先が応答したときにメール転送アプリケーションが通話をハンドオフする先の VoiceXML アプリケーションの名前です。
-------	-----------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoicedsn-script コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン オフランプ ゲートウェイは、DSN または MDN 電子メール メッセージを受信すると、ボイス電子メール トリガー メッセージと同じ方法でそれを処理します。ダイヤルピアはダイヤル番号識別サービス (DNIS) に基づいて選択され、メールアプリケーションはこのコマンドで設定された VoiceXML アプリケーションに呼び出しを渡します。

例 次に、DSN アプリケーションを定義し、それをダイヤルピアに適用する例を示します。

```
application
service offramp-mapp tftp://sample/tftp-users/tcl/app_voicemail_offramp.tcl
param dsn-script dsn-mapp-test
!
dial-peer voice 1000 mmoip
application offramp-mapp
incoming called-number 555....
information-type voice
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicedsn-script	オフランプメールアプリケーションがオフランプ DSN および MDN 電子メールメッセージの通話を引き渡す先の、VoiceXML アプリケーションを指定します。

param event-log

リンク可能な Tcl 関数 (パッケージ) のロギングを有効または無効にするには、アプリケーションパラメータ設定モードで **paramevent-log** コマンドを使用します。このパラメータをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータイベントログ {有効にする | 無効にする}
 いいえパラメータイベントログ {enable | disable}

構文の説明

enable	イベントログが有効になっています。
disable	イベントログが無効になっています。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoiceevent-log コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン

このコマンドは、組み込みの共通音声アプリケーションパッケージで利用できます。そのパッケージにこのパラメータを設定する場合、最初にコマンド **packageappcommon** を使用する必要があります。

サービスにこのパラメータを設定する場合、次のコマンドを使用します。

servicenameurl

paramspaceappcommonevent-log

すべての音声アプリケーションのイベントログの設定を行っている場合、アプリケーション設定モニターモードで **event-log** コマンドを使用します。



- (注) イベントログが本番トラフィックのシステムリソースに悪影響を及ぼさないようにするために、ゲートウェイはスロットリングメカニズムを使用します。プロセッサメモリの空きが 20% を下回ると、ゲートウェイは自動的にすべてのイベントログを無効にします。メモリの空きが 30% を超えるとイベントログが再開されます。スロットリングが行われている間は、イベントログが有効になっていても、ゲートウェイは新しいイベントログをキャプチャしません。空きメモリを監視し、障害の切り分けに必要な場合にのみイベントログを有効にしてください。

例

次の例では、組み込みの共通音声アプリケーションパッケージでイベント ログを無効にする方法を示しています。

```
application
package appcommon
param event-log disable
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceevent-log	特定の音声アプリケーションのイベント ログを有効にします。
イベントログ	アプリケーションのイベントログを有効にします。
パッケージappcommon	組み込みの共通音声アプリケーション パッケージのパラメータを設定します。
パラメータ	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
param言語	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
paramモード	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramリダイレクト番号	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramsecurity	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。

コマンド	説明
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param fax-dtmf

デフォルトの音声モードとデフォルトのファックスモードで、ファックスの呼び出しであることを示すために、ファックス検出の IVR アプリケーションに特定の数字を認識させるように指示するには、**paramfax-dtmf** コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで使用します。この番号の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
param fax-dtmf {0|1|2|3|4|5|6|7|8|9|*|#}
no param fax-dtmf {0|1|2|3|4|5|6|7|8|9|*|#}
```

構文の説明

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #	ファックス検出 IVR アプリケーションの default-voice または default-fax モード中に再生される音声プロンプトに応答して、ファックスコールを示すために発信側が処理する電話のキーパッドの数字です。
--------------------------------	---

コマンド デフォルト

2

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoicefax-dtmf コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ファックス検出 IVR アプリケーションが **parammode** モードで定義されているとおり、デフォルトの音声モードまたはデフォルトのファックスモードで設定されている場合にのみ役立ちます。

paramvoice-dtmf コマンドを使用して音声 DTMF も設定する場合、音声 DTMF 番号とファックス DTMF 番号には異なる番号を使用する必要があります。

例

次の例では、DTMF 桁の 1 を選択して FAX 呼び出しを示すために

```
application
service faxdetect tftp://sample/tftp-users/tcl/app_fax_detect.2.x.x.tcl
param fax-dtmf 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicefax-dtmf	default-voice および default-fax モードで、FAX 呼び出しであることを示すために、指定された桁を認識するように、FAX 検出 IVR アプリケーションに指示します。
param モード	パッケージの着信転送モードを設定します。

コマンド	説明
paramvoice-dtmf	指定された桁を認識するようにアプリケーションに指示し、 default-voice および default-fax モードで音声コールであることを示します。

param global-password

音声カードで蓄積転送 FAX を使用する際に、Cisco Secure for Windows NT で使用するパスワードを定義するには、**パラメータグローバルパスワード** コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで使します。既定値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使します。

パラメータグローバルパスワードパスワード

いいえパラメータグローバルパスワードパスワード

構文の説明

パスワード	ストアアンドフォワードファックスで使される Cisco Secure for Windows NT パスワードを定義するために使される文字列。長さは英数字で 64 文字までです。
-------	---

コマンド デフォルト

パスワードが定義されていません

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoiceglobal-password コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

Cisco Secure for Windows NT は、使用するセキュリティプロトコルに関係なく、認証を完了するために別のパスワードを要求する場合があります。このコマンドは、Cisco Secure for Windows NT で使されるパスワードを指定します。Windows NT サーバ上のすべてのレコードは、この定義されたパスワードを使します。

このコマンドは、Cisco AS5300 ユニバーサル アクセス サーバ音声フィーチャードカードのオンランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。モデムカードでは使されません。

例

次の例は、app_libretto_onramp9 Tcl アプリケーションのために AAA が使用するパスワード (abercrombie) を示しています。

```
application
service onramp tftp://sample/tftp-users/tcl/app_libretto_onramp9.tcl
param global-password abercrombie
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceglobal-password	音声フィーチャードカードで FAX の蓄積転送を使用する場合、Cisco Secure for Windows NT で使されるパスワードを定義します。

param language

ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを設定するには、アプリケーションパラメータ設定モードで **paramlanguage** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式はありません。

paramlanguage プレフィックス

構文の説明	プレフィックス	言語の 2 文字のプレフィックス。たとえば、英語の場合は「 <i>en</i> 」、ロシア語の場合は「 <i>ru</i> 」などです。
-------	---------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドは、 calllanguagevoice コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン 言語パラメータを設定する前に、アプリケーション設定モードで **パッケージ language** コマンドを使って言語パッケージを読み込む必要があります。

サービスにこのパラメータを設定する場合、次のコマンドを使用します。

servicenameurl

paramlanguageprefix

例

次の例では、ロシア語 (*ru*) を Tcl モジュールとして追加し、プロンプトにロシア語を使用するようにデビットカードアプリケーションを設定します:

```
application
package language ru tftp://box/unix/scripts/multi-lang/ru_translate.tcl
service debitcard tftp://server-1/tftpboot/scripts/app_debitcard.2.0.2.8.tcl
param language ru
```

関連コマンド	コマンド	説明
	callapplicationvoiceset-location	指定された IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。
	calllanguagevoice	IVR アプリケーションで使用する外部 Tcl モジュールを設定します。

コマンド	説明
パラメータ	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramsecurity	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param mail-script

宛先の電話が応答したときに、オフランプメールアプリケーションがコールを引き継ぐ先の VoiceXML アプリケーションを指定するには、アプリケーションパラメータ設定モードで **parammail-script** コマンドを使用します。アプリケーションを削除するには、**no** 形式でこのコマンドを使用します。

parammail-script アプリケーション名
 いいえパラメータメールスクリプトアプリケーション名

構文の説明	アプリケーション名	宛先が応答したときにメール転送アプリケーションが通話をハンドオフする先の VoiceXML アプリケーションの名前です。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません	
コマンド モード	アプリケーションのパラメータ設定	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoicemail-script コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

- メールアプリケーションをゲートウェイ上で設定するには、**アプリケーション**コマンドを使用します。
- オフランプメールアプリケーションは、着信電子メールメッセージのヘッダーに含まれる電話番号と一致する Multimedia Mail over Internet Protocol (MMoIP) ダイアルピアで構成する必要があります。
- オフランプメールアプリケーションは、Cisco が提供する「app_voicemail_offramp.tcl」という名前の Tool Command Language (Tcl) スクリプトを使用する必要があります。この Tcl スクリプトは、次のパスに従って Cisco ウェブサイトからダウンロードできます。

Cisco.com>テクニカルサポート&ドキュメント>ツール&リソース>ソフトウェアのダウンロード>アクセスソフトウェア>TclWare

例

次の例は、電子メールのヘッダーにある電話番号が 555 で始まる 7 桁の場合に、「offramp-mapp」という名前のオフランプメールアプリケーションが通話を「mapp-test」というアプリケーションにハンドリングする例を示しています。

```
application
service offramp-mapp tftp://sample/tftp-users/tcl/app_voicemail_offramp.tcl
param mail-script mapp-test
```

```
!  
dial-peer voice 1001 mmoip  
application offramp-mapp  
incoming called-number 555....  
information-type voice
```

関連コマンド

コマンド	説明
通話アプリケーション音声メール スクリプト	宛先の電話が応答したときに、オフランプメールアプリケーションが呼び出しをハンドオフする先の VoiceXML アプリケーションを指定します。

パラメータ モード

パッケージのコール転送モードを設定するには、アプリケーションパラメータ設定モードで **parammode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータモード {**redirect** | **redirect-at-alert** | **redirect-at-connect** | **redirect-rotary** | **rotary**}
 いいえパラメータモード

構文の説明	redirect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号にコールレグをリダイレクトします。
	redirect-at-alert	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグがアラート状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つのコールレグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。2つのBチャンネル転送(TBCT)をサポートします。
	redirect-at-connect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグが接続状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つの通話レグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。TBCTをサポートします。
	redirect-rotary	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に通話の脚をリダイレクトします。リダイレクションが失敗した場合、ゲートウェイはリダイレクトされた宛先番号に rotary call を発信し、2つの通話の脚をヘアピンターンします。TBCTの場合、このモードは redirect-at-connect と同じです。
	rotary	ゲートウェイは、発信コールレグに回転式コールを配置し、2つのコールレグをヘアピンターンします。コールリダイレクションは呼び出されません。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト ロータリー;コールリダイレクションは呼び出されません。

コマンド モード アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、パッケージのみにコール転送モードを設定する場合に使用します。その後、そのパッケージを使用する1つ以上のサービスを構成できます。代わりに、

paramspacecallsetupmode コマンドを使用して、サービスまたはスタンドアロンアプリケーションの着信転送モードを設定することもできます。

例

次の例は、通話設定パッケージのリダイレクトに設定された通話転送方法を示しています。

```
application
package callsetup
param mode redirect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicemode	ファックス検出 IVR アプリケーションに、4 つの接続モードのいずれかで動作するように指示します。
callapplicationvoicetransfermode	Tcl または VoiceXML アプリケーションのコール転送方法を指定します。
パラメータ	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parampin-len	アプリケーションの暗証番号 (PIN) の文字数を定義します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。

コマンド	説明
paramセキュリティ	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param pin-len

アプリケーションの暗証番号(PIN)の文字数を定義するには、次を使用します:**paramPINlen**コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで。指定のアプリケーションの PIN を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

parampin-lennumber

いいえ**parampin-lennumber**

構文の説明	<i>number</i> 指定のアプリケーションに関連する PIN の許容文字数です。範囲は 0 ～ 10 です。デフォルトは 4 です。
-------	--

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴	リリース 変更
	12.3(14)T このコマンドは、 call applicationvoicepin-len コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン このコマンドは、Interactive Voice Response (IVR)を設定する際、またはIVR関連機能（デビットカードなど）の一つを設定する際に使用します。使用するTool Command Language (Tcl) スクリプトによりますが、指定したアプリケーションのPINの許容文字数を定義し、その情報を指定したアプリケーションに渡すために使用します。

パッケージの PIN の長さを設定するには、**package** コマンドを使用してから、**parampin-len** コマンドを使用します。サービスの PIN の長さを設定するには、**service** コマンドを使用してから、**parampin-len** コマンドを使用します。

例

次の例では、Tcl 番号収集パッケージの 8 文字の PIN の長さを定義する方法を示します。

```
application
package digcl.tcl
param pin-len 8
```

次の例は、デビットカードアプリケーション用に 8 文字の PIN の長さを定義する方法を示します:

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
param pin-len 8
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicepin-len	指定アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
パラメータ	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tci 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
param リダイレクト番号	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
param リルートモード	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param 再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
param セキュリティ	リンク可能な Tci 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param prompt

ファックス検出IVRアプリケーションに指定の音声ファイルをユーザプロンプトとして使用させるには、アプリケーションパラメータ設定モードで **paramprompt** コマンドを使用します。この音声ファイルの使用を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータプロンプトプロンプト URL
いいえパラメータプロンプト *prompt-url*

構文の説明

プロンプト <i>URL</i>	アプリケーションのプロンプトを含む音声ファイルの URL または TFTP サーバ上の Cisco IOS ファイルシステム (IFS) の場所です。
---------------------	---

コマンド デフォルト

プロンプトスペースが空で、プロンプトは再生されません。

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoiceprompt コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドが有効なのは、ファックス検出アプリケーションが、listen-first、default-voice、および default-fax モードの場合だけです。

発信者が最初の CNG 検出期間中に無音を聞かないように、音声ファイルは少なくとも 9 秒必要です。任意の .au ファイルを使用できます。形式については、『Cisco IOS 音声、ビデオ、およびファックス設定ガイド、リリース 12.4』で説明されています。

例

次の例では、音声ファイル "promptfile.au" をアプリケーション ファイル「fax_detect」に関連付け、アプリケーションを着信 POTS ダイアルピアに関連付けます:

```
application
service fax_detect tftp://users/scripts/app_fax_detect.2.x.x.tcl
param mode default-voice
param prompt promptfile.au
dial-peer voice 302 pots
application fax_detect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceprompt	ファックス検出 IVR アプリケーションに、指定した音声ファイルをユーザプロンプトとして使用するよう指示します。

param redirect-number

サービスプロバイダのオペレータ電話番号など、リダイレクト先の電話番号をアプリケーションで定義するには、**パラメータリダイレクトnumber** コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで呼び出します。電話番号のリダイレクトをキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

paramredirect-numbernumber

いいえパラメータ **redirect-numbernumber**

構文の説明

number	サービス プロバイダーの指定オペレータ電話番号 (または顧客が指定したその他の番号) これは、たとえば、許可されたデビットタイムがなくなった場合、またはデビット金額を超過した場合に、通話が終了する番号です。
---------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

Cisco IOS リリース	シスコ製品	変更
12.3(14)T	Cisco CME 3.3	このコマンドは、 call applicationvoiceredirect-number コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン

Interactive Voice Response (IVR) を設定する場合、またはIVR関連機能（デビットカードなど）のいずれかを定義するために、このコマンドを使用します。使用されているツールコマンド言語（Tcl）スクリプトによりますが、電話がリダイレクトされる電話番号を定義します。

パッケージのリダイレクト番号を設定するには、**package** コマンドを使用してパッケージをロードし、その後で **paramredirect-number** コマンドを使用します。サービスのリダイレクト番号を設定するには、**service** コマンドを使用した後で **paramredirect-number** コマンドを使用します。

例

次の例では、"プリペイド"という名前のアプリケーションのリダイレクト番号を定義する方法を示します:

```
application
service prepaid tftp://tftp-server/scripts/prepaid.tcl
param redirect-number 5550111
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceredirect-number	指定のアプリケーションに対して、転送先の電話番号 (例えば、サービスプロバイダのオペレータ電話番号) を定義します。
パラメータ	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの暗証番号 (PIN) の文字数を指定します。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramセキュリティ	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
param警告時間	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。
サービス	ダイヤルピア上の特定のスタンドアロン アプリケーションをロードして設定します。

param reroutemode

パッケージに着信転送再ルーティングモード(自動転送)を設定するには、アプリケーションパラメータ設定モードで **paramreroutemode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータ再ルーティングモード {**redirect** | **redirect-at-alert** | **redirect-at-connect** | **redirect-rotary** | **rotary**}

いいえパラメータ **reroutemode**

構文の説明

redirect	2つのコールレグが直接接続されています。RTPvtをサポートします。
redirect-at-alert	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグがアラート状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つのコールレグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つのコールレグをブリッジします。2つのBチャンネル転送(TBCT)をサポートします。
redirect-at-connect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグが接続状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つのコールレグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つのコールレグをブリッジします。TBCTをサポートします。
redirect-rotary	2つのコールレグが直接接続されています(リダイレクト)。それが失敗した場合、2つのコールレグはゲートウェイ(rotary)でヘアピンされます。
rotary	ゲートウェイは、発信コールレグに回転式コールを配置し、2つのコールをまとめてヘアピンターンします。Release-to-Pivot (RTPvt) は実行されません。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト

回転方式; RTPvt は起動されません。

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、パッケージのみに着信の転送を設定する場合に使用します。その後、そのパッケージを使用する1つ以上のサービスを構成できます。代わりに、

paramspacecallsetupreroutemode コマンドを使用して、サービスまたはスタンドアロンアプリケーションの着信の転送を設定します。

リダイレクトロータリーは、推奨される転送方法です。これにより、通話路が対応している限り、コールリダイレクト方法が常に選択されるためです。

例

次の例は、通話セットアップパッケージで、[リダイレクト] に設定された通話転送方法を示しています。

```
application
package callsetup
param reroutemode redirect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicetransferroute-mode	Tcl アプリケーションの着信転送動作を指定します。
パラメータ	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
param言語	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
paramモード	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramリダイレクト番号	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramretry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramsecurity	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。

コマンド	説明
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param retry-count

発信者がパッケージに暗証番号 (PIN) を再入力できる回数を定義するには、アプリケーションパラメータ設定モードの **パラメータ再試行カウント** コマンドを使用します。設定した再試行回数をキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータ再試行回数 *number*

いいえパラメータ再試行回数 *number*

構文の説明

<i>number</i>	発信者が PIN 番号を再入力できる回数 範囲は 1 ～ 5 です。デフォルトは 3 です。
---------------	--

コマンドデフォルト

3

コマンドモード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

Interactive Voice Response (IVR) を設定する場合、または使用されている Tool Command Language (Tcl) スクリプトに応じて、または IVR 関連機能 (デビットカードなど) の 1 つで、ユーザが PIN を再入力できる回数を定義する場合にこのコマンドを使用します。

パッケージの PIN 再試行回数を設定するには、**パッケージ** コマンドを使用してパッケージをロードしてから、**paramretry-count** コマンドを使用してください。サービスの PIN 再試行回数を設定するには、**service** コマンドを使用してから、**paramretry-count** コマンドを使用します。

例

次の例では、ユーザが PIN を 2 回再入力してから切断されるように、パッケージに PIN 再試行カウントを設定する方法を示します。

```
application
package sample1.tcl
param retry-count 2
```

次の例は、ユーザが切断される前に PIN を 2 回再入力できるように、デビットカードアプリケーションで PIN 再試行カウントを設定する方法を示しています。

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
param retry-count 2
```

関連コマンド

コマンド	説明
call applicationvoicere retry-count	指定のアプリケーションに対して発信者が PIN を再入力できる回数を定義します。
param	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
paramセキュリティ	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param security

リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定するには、アプリケーションパラメータ設定モードで **param security** コマンドを使用します。このパラメータを既定値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

paramセキュリティ {trusted | untrusted}

いいえ**param**セキュリティ {trusted | untrusted}

構文の説明

trusted	自動番号識別 (ANI) はブロックされません。
untrusted	ANI はブロックされています。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoicsecurity コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン

このコマンドは、組み込みの共通音声アプリケーションパッケージで利用できます。そのパッケージにこのパラメータを設定する場合、最初にコマンド **packageappcommon** を使用する必要があります。

サービスにこのパラメータを設定する場合、次のコマンドを使用します。

サービス名URL

paramspaceappcommonsecurity {trusted | untrusted}

アプリケーションが信頼できるアプリケーションとして設定されている場合、宛先に発信番号を提供しないことが信頼されているため、ANIは利用可能な場合に常に提供されます。通常、発信者 ID がブロックされている場合、音声ゲートウェイは、発信番号 (ANI) を VoiceXML アプリケーションに提供しません。音声ゲートウェイに着信する通話のプレゼンテーション表示フィールドが[プレゼンテーション制限]に設定されている場合、発信者番号通知はブロックされます。session.telephone.ani 変数が「ブロックされている」に設定されています。 **param securitytrusted** コマンドが設定されている場合、ゲートウェイは発信者 ID 通知をブロックしません。これにより、VoiceXML アプリケーションに発信番号が提供されます。このコマンドのキーワードが **untrusted** に設定されている場合、発信者 ID はブロックされます。

コールシグナリングメッセージの GTD (Generic Transparency Descriptor) パラメータを VoiceXML および Tcl セッション変数にマッピングできるようにするには、 **paramsecuritytrusted** コマンドを設定する必要があります。このコマンドが設定されていない場合、GTD パラメータに対応する VoiceXML 変数は利用不可としてマークされます。VoiceXML および Tcl セッション変

数の詳細は、それぞれ『Cisco VoiceXML Programmer's Guide』および『[Tcl IVR API Version 2.0 Programmer's Guide](#)』を参照してください。

例

次の例では、**paramsecuritytrusted** コマンドを使用して、VoiceXML アプリケーションのセキュリティレベルを「信頼できる」に設定する方法を示します。これにより、自動番号認識 (ANI) がブロックされることはありません。

```
application
package appcommon
param security trusted
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicesecuritytrusted	ANIがブロックされないように、VoiceXML アプリケーションのセキュリティ レベルを「信頼」に設定します。
packageappcommon	組み込みの共通音声アプリケーション パッケージのパラメータを設定します。
param	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。

コマンド	説明
param 再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
param spaceappcommonsecurity	サービス(アプリケーション)のセキュリティを設定します。
param uid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
param 警告時間	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。
サービス	ダイヤルピア上の特定のスタンドアロン アプリケーションをロードして設定します。

param uid-len

パッケージのユーザ ID 番号 (UID) の文字数を定義するには、アプリケーションのパラメータ設定で **paramuid-len** コマンドを使用します。このコマンドの設定をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータ **uid-lennumber**

いいえパラメータ **uid-lennumber**

構文の説明	number	指定のアプリケーションに関連する UID の許容文字数です。値の範囲は 1 ～ 20 です。デフォルトは 10 です。
-------	---------------	---

コマンド デフォルト 10 文字

コマンド モード
アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoiceuid-length コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン Interactive Voice Response (IVR) を設定する際、またはツールコマンド言語 (Tcl) スクリプトに依存する IVR 関連機能 (デビットカードなど) の 1 つを設定する際に、このコマンドを使用して UID の許容文字数を定義します。

このコマンドは、組み込みの共通音声アプリケーションパッケージで利用できます。そのパッケージにこのパラメータを設定する場合、最初にコマンド **packageappcommon** を使用する必要があります。サービスにこのパラメータを設定する場合、最初に **service** コマンドを使用する必要があります。

例 次の例では、1 つのパッケージで UID の長さを 20 に設定しています。

```
application
package sample1.tcl
param uid-len 20
```

次の例では、デビットカードアプリケーションの UID の長さを 20 に設定しています。

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
param uid-len 20
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceuid-length	指定されたアプリケーションの UID の文字数を定義し、指定されたアプリケーションにその情報を渡します。
packageappcommon	組み込みの共通音声アプリケーション パッケージのパラメータを設定します。
パラメータ	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramreroutemode	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
paramretry-count	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramsecurity	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramwarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。

param voice-dtmf

FAX 検出自動音声応答 (IVR) アプリケーションに、音声コールを示す特定の数字を認識させるには、**paramvoicedtmf** コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで使します。この桁の設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使します。

param voice-dtmf {0|1|2|3|4|5|6|7|8|9|*|#}
no param voice-dtmf {0|1|2|3|4|5|6|7|8|9|*|#}

構文の説明

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 * #	ファックス検出 IVR アプリケーションの default-voice and default-fax モードで設定された音声プロンプトに回答して、音声コールを発信するために発信側が押す電話のキーパッド ボタン。
-------------------------	--

コマンド デフォルト

1

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoicevoice-dtmf コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ファックス検出 IVR アプリケーションが **parammode** モードで定義されているとおり、デフォルトの音声モードまたはデフォルトのファックスモードで設定されている場合にのみ役立ちます。

paramvoice-dtmf コマンドを使用して音声 DTMF も設定する場合、音声とファックスの DTMF 番号には異なる番号を使用する必要があります。

例

次の例では、デュアル トーン多重周波数 (DTMF) の 2 を選択して音声コールを示します。

```
application
service faxdetect tftp://sample/tftp-users/tcl/app_fax_detect.2.x.x.tcl
param voice-dtmf 2
dial-peer voice 302 pots
application fax_detect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicevoice-dtmf	ファックス検出 IVR アプリケーションに、音声コールであることを示す指定された番号を認識させるよう指示します。
paramモード	パッケージの着信転送モードを設定します。

コマンド	説明
paramfax-dtmf	指定された桁を認識するようにアプリケーションに指示し、 default-voice および default-fax モードで FAX コールであることを示します。

param warning-time

許容通話時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義するには、アプリケーションパラメータ設定モードで **paramwarningtime** コマンドを使用します。設定した警告期間を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パラメータ警告時間数

いいえパラメータ警告時間数

構文の説明

数	許容発信時間に達するまでの警告時間 (秒) です。範囲は 10 から 600 です。この引数に既定値はありません。
---	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

アプリケーションのパラメータ設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoicewarning-time コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン

Interactive Voice Response (IVR) を設定する際にこのコマンドを使用します。使用されている Tool Command Language (Tcl) スクリプトによって異なります。または、IVR 関連機能 (デビットカードなど) の 1 つで、許可された通話時間が切れる前の警告期間の秒数を定義します。

このコマンドは、組み込みの共通音声アプリケーションパッケージで利用できます。そのパッケージにこのパラメータを設定する場合、最初にコマンド **packageappcommon** を使用する必要があります。サービスにこのパラメータを設定する場合、最初に **service** コマンドを使用する必要があります。

例

次の例では、パッケージで警告時間パラメータを 30 秒に構成します。

```
application
package sample1.tcl
param warning-time 30
```

次の例では、デビットカードアプリケーションの警告時間パラメータを 30 秒に設定しています。

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
param warning-time 30
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicewarning-time	許容発信時間内にユーザが受信する警告の秒数を定義します。
パッケージappcommon	組み込みの共通音声アプリケーション パッケージのパラメータを設定します。
param	パッケージまたはサービス (アプリケーション) のパラメータを読み込み、構成します。
paramaccount-id-method	特定の方法を使用してアカウント識別子を割り当てるようにアプリケーションを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータの DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramevent-log	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のログを有効または無効にします。
paramlanguage	ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを構成します。
parammode	パッケージの着信転送モードを設定します。
parampin-len	アプリケーションの PIN の文字数を定義します。
paramredirect-number	転送先の電話番号を定義します。例えば、アプリケーションのサービスプロバイダのオペレータ電話番号です。
paramリルートモード	パッケージの着信転送再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
param再試行回数	指定のアプリケーションに対して、発信者が PIN を再入力できる回数を指定します。この回数は、そのアプリケーションに渡されます。
paramセキュリティ	リンク可能な Tcl 機能 (パッケージ) のセキュリティを設定します。
paramuid-length	パッケージの UID の文字数を定義します。
サービス	ダイヤルピア上の特定のスタンドアロン アプリケーションをロードして設定します。

パラメータスペース

アプリケーションが他のアプリケーションのローカルパラメータスペースのパラメータを使用できるようにするには、アプリケーションサービス設定モードで **paramspace** コマンドを使用します。このパラメータをパラメータのデフォルトネームスペースに戻すには、このコマンドの **no** オプションを使用します。

paramspace パラメータネームスペースパラメータ名パラメータ値
 いいえ **paramspace** パラメータネームスペースパラメータ名パラメータ値

構文の説明	パラメータネームスペース	パラメータを使用するためのパラメータの名前空間です。
	パラメータ名	使用するパラメータです。
	パラメータ値	パラメータの値です。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード アプリケーション サービスの構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(14)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン アプリケーションが同じパラメータ名を使用することによる問題を回避するために、パラメータネームスペース またはパラメータスペース コンセプトが導入されました。アプリケーションがゲートウェイで定義されると、そのパラメータ名前空間は自動的に定義されます。これは、アプリケーションのローカルパラメータスペースと呼ばれます。 **param** コマンドを使用してアプリケーションのパラメータを設定する場合、設定可能なパラメータはローカルパラメータスペースに含まれるパラメータとなります。

別のパラメータスペースにあるパラメータ定義を使用する場合は、次を使用できます。

paramspaceparameter-namespaceparameter-nameparameter-value コマンドを使用して、アプリケーションのパラメータを別のパラメータスペースにマッピングします。これにより、アプリケーションはローカルのパラメータ空間に加えて、新しいパラメータ空間にあるパラメータ定義を使用することができます。

例

以下の例は、英語翻訳パッケージのパラメータを使用するように構成されたデビットカードサービスを示しています。

```
application
service debitcard tftp://server-1//tftpboot/scripts/app_debitcard.2.0.2.8.tcl
```

```
paramspace english language en
paramspace english index 1
paramspace english prefix en
paramspace english location tftp://server-1//tftpboot/scripts/au/en/
```

関連コマンド

コマンド	説明
パラメータ	ゲートウェイ上のパッケージまたはサービス(アプリケーション)のパラメータをロードして設定します。
paramspaceappcommonevent-log	サービス(アプリケーション)のログを有効または無効にします。
paramspaceappcommonsecurity	サービス(アプリケーション)のセキュリティを設定します。
paramspacecallsetupモード	アプリケーションの着信転送モードを設定します。
paramspacecallsetupreroutemode	アプリケーションの通話再ルーティングモード(着信転送)を設定します。
paramspacelanguage	IVR アプリケーション(Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。

paramspace appcommon event-log

サービス(アプリケーション)のログ記録を有効または無効にするには、アプリケーションサービス構成モードで **paramspaceappcommonevent-log** コマンドを使用します。このコマンドに **no** 形式はありません。

パラメータスペース **appcommon** イベントログ {有効にする | 無効にする}

構文の説明

有効にする	イベントログが有効になっています。
無効にする	イベントログが無効になっています。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

アプリケーション サービスの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoiceevent-log コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン

サービス(アプリケーション)のイベントログを設定するには、このコマンドを使用します。

パッケージのみのイベントロギングを設定している場合、アプリケーションパラメータ設定モードで **パッケージappcommon** コマンドを使用します。

すべての音声アプリケーションのイベントログを設定している場合、アプリケーション設定モニタモードで **event-log** コマンドを使用します。



- (注) イベントログが本番トラフィックのシステムリソースに悪影響を及ぼさないようにするために、ゲートウェイはスロットリングメカニズムを使用します。プロセッサメモリの空きが20%を下回ると、ゲートウェイは自動的にすべてのイベントログを無効にします。メモリの空きが30%を超えるとイベントログが再開されます。スロットリングが行われている間は、イベントログが有効になっていても、ゲートウェイは新しいイベントログをキャプチャしません。空きメモリを監視し、障害の切り分けに必要な場合にのみイベントログを有効にしてください。

例

次の例では、デビットカードアプリケーションのイベントロギングが無効になっています。

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
paramspace appcommon event-log disable
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoiceevent-log	特定の音声アプリケーションのイベント ログを有効にします。
paramspace	アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。
paramspaceappcommonsecurity	サービス(アプリケーション)のセキュリティを設定します。
paramspacecallsetupmode	アプリケーションの着信転送モードを設定します。
paramspacecallsetupreroutemode	アプリケーションの通話再ルーティングモード(着信転送)を設定します。
paramspacelanguage	IVR アプリケーション(Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。

paramspace appcommon security

サービス(アプリケーション)のセキュリティを設定するには、アプリケーションのサービス設定モードで **paramspaceappcommon security** コマンドを使用します。このパラメータをパラメータのデフォルトネームスペースに戻すには、このコマンドの **no** オプションを使用します。

パラメータスペース **appcommon** セキュリティ {**trusted** | **untrusted**}

いいえパラメータスペース **appcommon** セキュリティ {信頼できる | 信頼できない}

構文の説明

信頼済み	自動番号識別 (ANI) はブロックされません。
信頼されていない	ANI はブロックされています。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はない

コマンド モード

アプリケーション サービスの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 call applicationvoicsecurity コマンドに代わるものです。

使用上のガイドライン

このコマンドは、組み込みの共通音声アプリケーション パッケージで利用できます。組み込みの共通音声アプリケーションパッケージにこのパラメータを設定する場合、コマンド **param security** を使用します。

アプリケーションが信頼できるアプリケーションとして設定されている場合、宛先に発信番号を提供しないことが信頼されているため、ANI は利用可能な場合に常に提供されます。通常、発信者 ID がブロックされている場合、音声ゲートウェイは、発信番号 (ANI) を VoiceXML アプリケーションに提供しません。音声ゲートウェイに着信する通話のプレゼンテーション表示フィールドが [プレゼンテーション制限] に設定されている場合、発信者番号通知はブロックされます。session.telephone.ani 変数が「ブロックされている」に設定されています。

「**paramspaceappcommonsecurity**信頼された」コマンドが設定されていると、ゲートウェイは発信者IDをブロックせず、VoiceXMLアプリケーションに発信番号を提供します。このコマンドのキーワードが **untrusted** に設定されている場合、発信者 ID はブロックされます。

コールシグナリングメッセージの GTD (Generic Transparency Descriptor) パラメータを VoiceXML および Tcl セッション変数にマッピングできるようにするには、**paramspaceappcommonsecurity** 信頼された コマンドを設定する必要があります。このコマンドが設定されていない場合、GTD パラメータに対応する VoiceXML 変数は利用不可としてマークされます。VoiceXML および Tcl セッション変数の詳細については、それぞれ『Cisco VoiceXML Programmer's Guide』および『[Tcl IVR API Version 2.0 Programmer's Guide](#)』を参照してください。

例

次の例は、デビットカードアプリケーション用に構成されたセキュリティを示しています。アプリケーションのセキュリティレベルは「信頼済み」に設定されているため、自動番号識別 (ANI) はブロックされません。

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
paramspace appcommon security trusted
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicesecuritytrusted	ANIがブロックされないように、VoiceXMLアプリケーションのセキュリティレベルを「信頼」に設定します。
paramspace	アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。
paramspaceappcommonevent-log	サービス (アプリケーション) のログを有効または無効にします。
paramspacecallsetupmode	アプリケーションの着信転送モードを設定します。
paramspacecallsetupreroutemode	アプリケーションの通話再ルーティングモード (着信転送) を設定します。
paramspacelanguage	IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。

paramspace callsetup mode

アプリケーションの着信転送モードを設定するには、アプリケーションサービス設定モードで **paramspacecallsetupmode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

paramspacecallsetup モード { **redirect** | **redirect-at-alert** | **redirect-at-connect** | **redirect-rotary** | **rotary** }

いいえ **paramspacecallsetup** モード

構文の説明

redirect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号にコールレグをリダイレクトします。
アラートのリダイレクト	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグがアラート状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つの通話レグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。2つの B チャンネル転送 (TBCT) をサポートします。
接続時にリダイレクト	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグが接続状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つの通話レグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。TBCT をサポートします。
redirect-rotary	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号にコールレグをリダイレクトします。リダイレクションが失敗した場合、ゲートウェイはリダイレクトされた宛先番号に rotary call を発信し、2つの通話の脚をヘアピンターンします。TBCT の場合、このモードは redirect-at-connect と同じです。
回転式	ゲートウェイは、発信コールレグに回転式コールを配置し、2つのコールレグをヘアピンターンします。コールリダイレクションは呼び出されません。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト

ロータリー;コールリダイレクションは呼び出されません。

コマンド モード

アプリケーション サービスの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	This command was introduced to replace the callapplicationvoicetransfermode command.

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、サービスまたはスタンドアロンアプリケーションの着信転送モードを設定します。代わりに、**packagecallsetupandparammode** コマンドを使用して、パッケージのみのコールフォワードモードを設定し、そのパッケージを使用する1つ以上のサービスを構成することもできます。

このコマンドは、音声アプリケーションが TBCT または RTPvt を呼び出すことができるかどうかを決定します。

リダイレクトロータリーは、推奨される転送方法です。これにより、通話路が対応している限り、コールリダイレクト方法が常に選択されるためです。

例

以下の例は、デビットカードアプリケーションのリダイレクトに設定された call メソッドを示しています:

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
paramspace callsetup mode redirect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicetransfermode	Tcl または VoiceXML アプリケーションの通話転送方法を指定します。
packagecallsetup	組み込みの call-setup パッケージでパラメータを設定します。
parammode	パッケージの通話転送モードを設定します。
paramspace	アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。
paramspaceappcommonevent-log	サービス(アプリケーション)のログを有効または無効にします。
paramspaceappcommonsecurity	サービス(アプリケーション)のセキュリティを設定します。
paramspacecallsetupreroutemode	アプリケーションの通話再ルーティングモード(着信転送)を設定します。
paramspacelanguage	IVR アプリケーション(Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。

paramspace callsetup reroutemode

アプリケーションで通話再ルーティングモード(着信転送)を設定するには、サービス構成モードで **paramspacecallsetupreroutemode** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

paramspacecallsetupreroutemode {**redirect** | **redirect-at-alert** | **redirect-at-connect** | **redirect-rotary** | **rotary**}

いいえパラメータスペース **callsetupreroutemode**

構文の説明

redirect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号にコールレグをリダイレクトします。
redirect-at-alert	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグがアラート状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つの通話レグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。2つのBチャンネル転送(TBCT)をサポートします。
redirect-at-connect	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に新しいコールを発信し、発信コールレグが接続状態の場合、コール転送を開始します。コール転送が成功すると、2つの通話レグがゲートウェイで切断されます。転送が失敗した場合、ゲートウェイは2つの通話の脚をブリッジします。TBCTをサポートします。
redirect-rotary	ゲートウェイは、リダイレクトされた宛先番号に通話の脚をリダイレクトします。リダイレクションが失敗した場合、ゲートウェイはリダイレクトされた宛先番号に rotary call を発信し、2つの通話の脚をヘアピンターンします。TBCTの場合、このモードは redirect-at-connect と同じです。
rotary	ゲートウェイは、発信コールレグに回転式コールを配置し、2つのコールレグをヘアピンターンします。コールリダイレクションは呼び出されません。これはデフォルトです。

コマンド デフォルト

ロータリー;コールリダイレクションは呼び出されません。

コマンド モード

アプリケーションサービスの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoicetransferroute-mode コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、サービスまたはスタンドアロンアプリケーションの着信転送モードを設定するために使用されます。代わりに、**packagecallsetupparamreroutemode** コマンドを使用して、パッケージのみのコールフォワードモードを設定し、そのパッケージを使用する 1 つ以上のサービスを構成することもできます。

このコマンドは、音声アプリケーションが TBCT または RTPvt を呼び出すことができるかどうかを決定します。

リダイレクトロータリーは、推奨される転送方法です。これにより、通話路が対応している限り、コール リダイレクト方法が常に選択されるためです。

例

以下の例は、デビットカードアプリケーションにリダイレクトするように設定されたコールの転送方法を示しています。

```
application
service debitcard tftp://tftp-server/dc/app_debitcard.tcl
paramspace callsetup reroutemode redirect
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicetransferrerroute-mode	Tcl アプリケーションの着信転送動作を指定します。
paramspace	アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。
paramspaceappcommonevent-log	サービス (アプリケーション) のログを有効または無効にします。
paramspaceappcommonsecurity	サービス (アプリケーション) のセキュリティを設定します。
paramspacecallsetupmode	アプリケーションの着信転送モードを設定します。
paramspacelanguage	IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。

paramspace language

IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義するには、アプリケーションサービス設定モードで **paramspacelanguage** コマンドを使用します。これらの定義を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ゲートウェイのサービスまたはパッケージの言語パラメータを設定するには、アプリケーションサービス設定モードで **paramlanguage** コマンドを使用します。

パラメータスペース **language** {**location**位置 | **インデックス**数 | **language**プレフィックス}

構文の説明

言語	言語パッケージの名前です。Cisco IOS ソフトウェアには、英語などの一部の言語パッケージが組み込まれています。
location location	音声ファイルの URL。有効な URL は、TFTP、FTP、HTTP、RTSP サーバ、フラッシュメモリ、または Cisco 3600 シリーズのリムーバブルディスクを参照します。
インデックス番号	音声ファイルのカテゴリグループです (0 から 4)。たとえば、日と月を表す音声ファイルはカテゴリ 1、通貨単位を表す音声ファイルはカテゴリ 2、時間の単位 (秒、分、時間) を表す音声ファイルはカテゴリ 3 とします。範囲は0から4までで、0はすべてのカテゴリを意味します。
言語プレフィックス	音声ファイルに関連する言語を識別する 2 文字のコードです。有効なエントリは次の通りです: • en--英語 • sp--スペイン語 • ch--中国語 • aa--すべて

コマンド デフォルト

ロケーション、インデックス、カテゴリが設定されていません。

コマンド モード

アプリケーション サービスの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoicelanguage and the callapplicationvoiceset-location コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

Tcl スクリプトと VoiceXML ドキュメントは、次の場所のいずれかに保存することができます: TFTP、FTP、または HTTP サーバ上、ゲートウェイのフラッシュメモリ、または Cisco 3600 シリーズのリムーバブルディスク。使用する音声ファイルは、これらの場所のいずれかで、RTSP サーバに保存できます。

1 つのアプリケーションに複数の **set-location** 行を設定することができます。

プリペイドデビットカードの多言語機能により、任意の言語の Tcl スクリプトと 2 文字のコードを作成できます。『[Cisco Pre-Paid Debitcard Multi-Language Programmer's Reference](#)』を参照してください。

Cisco IOS IVR の多言語サポートにより、任意の言語の Tcl 言語モジュール、および Tcl および VoiceXML アプリケーションで使用する任意の音声合成 (TTS) 記法を作成できます。「Cisco IOS の自動音声応答の強化された多言語サポート」のドキュメントを参照してください。

例

次の例は、デビットカードアプリケーション用の **paramspace language** コマンドを設定する方法を示しています。

```
application
service debitcard tftp://server-1//tftpboot/scripts/app_debitcard.2.0.2.8.tcl
paramspace english language en
    paramspace english index 1
    paramspace english prefix en
    paramspace english location tftp://server-1//tftpboot/scripts/au/en/
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicelanguage	IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) で使用されるダイナミック プロンプトの言語を指定します。
callapplicationvoiceset-location	指定された IVR アプリケーション (Tcl または VoiceXML) によるダイナミック プロンプトに使用される音声ファイルのカテゴリと場所を定義します。
パラメータスペース	アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。
paramspaceappcommonevent-log	サービス (アプリケーション) のログを有効または無効にします。
paramspaceappcommonセキュリティ	サービス (アプリケーション) のセキュリティを設定します。
paramspacecallsetupモード	アプリケーションの着信転送モードを設定します。
paramspacecallsetupreroutemode	アプリケーションの通話再ルーティングモード (着信転送) を設定します。

paramspace session_xwork convert-discpi-after-connect

通話がアクティブ状態の場合に、PROG_INBAND (PI=8) に設定されたプログレスインジケータの DISCONNECT メッセージを通常の DISCONNECT メッセージに変換することを有効または無効にするには、**paramspacesession_xworkconvert-discpi-after-connect** コマンドをアプリケーションパラメータ設定モードで使します。このパラメータをデフォルトのパラメータネームスペースに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使します。

paramspacesession_xworkconvert-discpi-after-connect {有効にする | 無効にする}
 言い換え **paramspacesession_xworkconvert-discpi-after-connect** {enable | disable}

構文の説明

enable	通話がアクティブ状態のときに、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定されている DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換します。
disable	通話がアクティブ状態のときに、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行状況インジケータと共に、DISCONNECT メッセージに戻ります。

コマンド デフォルト

Enabled

コマンド モード

アプリケーションサービスの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(14)T	このコマンドは、 callapplicationvoicedefaultdisc-prog-ind-at-connect コマンドを置き換えるために導入されました。

使用上のガイドライン

通話がアクティブ状態でない場合、このコマンドは何の効果もありません。パッケージにこのパラメータを設定する場合、**パッケージsessionxwork** コマンドを使します。

例

次の例では、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定された状態で、DISCONNECT メッセージに対して変換が有効になっています。

```
application
service callappl.tcl tftp://tftp-server/callappl.tcl
paramspace session_xwork convert-discpi-after-connect enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
callapplicationvoicedefaultdisc-prog-ind-at-connect	通話がアクティブ状態の場合、進行状況インジケータが PROG_INBAND (PI=8) に設定された DISCONNECT メッセージを、通常の DISCONNECT メッセージに変換します。
packagesessionxwork	組み込みの session_xwork パッケージのパラメータを設定します。
paramconvert-discpi-after-connect	通話がアクティブ状態の場合に、PROG_INBAND (PI=8) に設定された進行インジケータの DISCONNECT メッセージを通常の DISCONNECT メッセージに変換するかどうかを指定します。
paramspace	アプリケーションが別のアプリケーションのローカルパラメータスペースからパラメータを使用できるようにします。

パススルーコンテンツ

受信レグから発信レグへのセッション記述プロトコル(SDP)のパススルーを有効にするには、グローバル VoIP SIP 構成モードまたはダイヤルピア設定モードで **pass-thrucontent** コマンドを使用します。設定済みのパススルーリストから SDP ヘッダーを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

pass-thru内容[**custom-sdp** | **sdp** {**mode** | **system**}] **unsupp**

パススルーなしコンテンツ[**custom-sdp** | **sdp** {**mode** | **system**}] **unsupp**

構文の説明

custom-sdp SIP プロファイルを使用してカスタム SDP のパススルーを有効にします。

sdp SDP コンテンツのパススルーを有効にします。

モード パススルー SDP モードを有効にします。

システム パススルー構成がグローバル **sip-ua** 値を使用することを指定します。このキーワードはテナント モードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

unsupp SIP メッセージまたは要求でサポートされていないすべてのコンテンツのパススルーを有効にします。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

SIP 構成 (conf-serv-sip)

ダイヤル ピア構成 (config-dial-peer)

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース

変更

Cisco IOS 15.6(1)T、Cisco IOS XE 3.17S このコマンドが変更され、キーワード: **custom-sdp** が追加されました。

15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1 このコマンドにキーワード **system** が追加されました。

Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a Yang モデルのサポートを導入しました。

例

以下の例では、グローバル VoIP SIP 設定モードで SIP プロファイル ピア ルールを使用して、カスタム SDP のパススルーを構成する方法を示します。

```
Router(conf-serv-sip)# pass-thru content custom-sdp
```

以下の例は、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードで SIP プロファイルを使用して、カスタム SDP のパススルーを設定する方法を示します。

```
Router(config-dial-peer)# voice-class sip pass-thru content custom-sdp
```

次に、グローバル VoIP SIP 設定モードで SDP のパススルーを設定する例を示します。

```
Router(conf-serv-sip)# pass-thru content sdp
```

次に、音声クラス テナント コンフィギュレーション モードで SDP のパススルーを設定する例を示します。

```
Router(config-class)# pass-thru content sdp system
```

次の例では、ダイヤルピア構成モードでサポートされていないコンテンツタイプのパススルーを構成する方法を示します。

```
Router(config-dial-peer)# voice-class sip pass-thru content unsupp
```

パススルーヘッダー

グローバルに設定されたリストのヘッダーリストのパススルーを有効にするには、グローバル VoIP SIP 設定モードまたはダイヤルピア設定モードで、**パススルーヘッダー** コマンドを使用します。設定済みのパススルーリストからヘッダーを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

パススルーヘッダー [*number* | **unsupp**]

パススルーなしヘッダー [*number* | **unsupp**]

構文の説明	<i>number</i>	グローバル値としてリンクされる sip-hdr-pass-thru リストタグ番号を指定します。範囲は 1 から 10000 です。
	unsupp	すべてのサポートされていないヘッダーのパススルーを有効にします。
コマンド デフォルト	Disabled	
コマンド モード	SIP 構成 (conf-serv-sip)	
	ダイヤル ピア構成 (config-dial-peer)	
コマンド履歴	リリース	変更
	Cisco IOS 15.6(1)T、Cisco IOS XE 3.17S	このコマンドは、ダイヤルピア設定モードで、次のキーワードを追加するように修正されました: system 。
	Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

例

次に、グローバル VoIP SIP コンフィギュレーション モードでサポートされていないヘッダーのパススルーを設定する方法を示します。

```
Router(conf-serv-sip)# pass-thru headers unsupp
```

次の例では、サポートされていないヘッダーのパススルーをダイヤルピア設定モードで設定する方法を示します。

```
Router(config-dial-peer)# voice-class sip pass-thru headers unsupp
```

関連コマンド

コマンド	説明
パススルー	メディア ネゴシエーションなしで、セッション記述プロトコル (SDP) を受信レグから送信レグに透過的に渡します。
passthru-hdr-unsupp	すべてのサポートされていないヘッダーのパススルーを有効にします。
voice class sip-hdr-passthru list	パススルーするヘッダーのリストを構成します。

passthru-hdr

設定済みのパススルーリストにヘッダー名を追加するには、音声クラス設定モードで **passthru-hdr** コマンドを使用します。設定済みのパススルーリストからヘッダー名を削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

passthru-hdrヘッダー名

いいえ**passthru-hdr** [ヘッダー名]

構文の説明

ヘッダー 設定済みのパススルーリストに追加されるヘッダーの名前です。
名

コマンド デフォルト

ヘッダー名は、構成されたパススルー リストに追加されません。

コマンド モード

音声クラス コンフィギュレーション モード (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
15.4(1)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

リストにヘッダー名を追加する前に、**voice class sip-hdr-passthru-list** コマンドを使用してパススルーリストを設定する必要があります。

パススルーするヘッダーのリストを設定できます。リストには、下の表に示されている必須のヘッダー以外の任意のヘッダーを含めることができます。

表 1: 必須ヘッダーのリスト

必須ヘッダーリスト		
ALSO	AUTHORIZATION	CALLID
CC_DIVERSION	CC_REDIRECT	CONTACT
CONTENT_DISP	CONTENT_ENCODING	CONTENT_LENGTH
CONTENT_TYPE	CISCO_GCID	CISCO_GUID
CSEQ	日付	変化前
MAX_FORWARDS	MIME_VER	MIME_VER_VAL
PRIVACY	PRIVACY_ASSERTED_ID	PRIVACY_PREFERRED_ID
PROXY_AUTH	PROXY_AUTHENTICATE	RECORD_ROUTE
ルー ト	RTP_STAT	SESSION_EXPIRES

必須ヘッダーリスト		
タイムスタンプ	TO	USER_AGENT
VIA	WWW_AUTHENTICATE	

例

次の例では、**voice class sip-hdr-passthruelist** コマンドを使用してパススルーリストを設定し、**passthru-hdr** コマンドを使用してヘッダー名「Resource-priority」をリストに追加します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice class sip-hdr-passthruelist 101
Device(config-class)# passthru-hdr Resource-Priority
Device(config-class)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
パススルー	メディア ネゴシエーションなしで、セッション記述プロトコル (SDP) を受信レグから送信レグに透過的に渡します。
passthru-hdr-unsupp	すべてのサポートされていないヘッダーのパススルーを有効にします。
voice class sip-hdr-passthruelist	パススルーするヘッダーのリストを構成します。
voice-classsip pass-thru	メディア ネゴシエーションなしで、セッション記述プロトコル (SDP) を受信レグから送信レグに透過的に渡します。

passthru-hdr-unsupp

サポートされていないヘッダーを設定済みのパススルーリストに追加し、リスト中のサポートされていないすべてのヘッダーのパススルーを有効にするには、**passthru-hdr-unsupp** コマンドを音声クラス設定モードで使用します。サポートされていないヘッダーを設定済みのパススルーリストから削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

passthru-hdr-unsupp

いいえ passthru-hdr-unsupp

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

サポートされていないヘッダーは、構成されたパススルー リストに含まれません。

コマンド モード

音声クラス コンフィギュレーション モード (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
15.4(1)T	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

サポートされていないヘッダーをリストに追加する前に、**voice class sip-hdr-passthruelist** コマンドを使用してパススルーリストを設定する必要があります。

例

次の例では、**voice class sip-hdr-passthruelist** コマンドを使用してパススルーリストを設定し、**passthru-hdr-unsupp** コマンドを使用してサポートされていないヘッダーをリストに追加します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# voice class sip-hdr-passthruelist 100
Device(config-class)# passthru-hdr-unsupp
Device(config-class)# end
```

関連コマンド

コマンド	説明
pass-thru	メディアネゴシエーションなしで、セッション記述プロトコル (SDP) を受信レグから送信レグに透過的に渡します。
passthru-hdr	設定したパススルーリストにヘッダー名を追加します。
voice class sip-hdr-passthruelist	パススルーするヘッダーのリストを構成します。

コマンド	説明
voice-classsip pass-thru	メディア ネゴシエーションなしで、セッション記述プロトコル (SDP) を受信レグから送信レグに透過的に渡します。

パターン

全体のセッション開始プロトコル (SIP) または電話 (TEL) の統一資源識別子 (URI) に基づいて通話を照合するには、音声 URI クラス設定モードで **pattern** コマンドを使用します。マッチを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

パターン *uri-pattern*
いいえパターン

構文の説明

<i>uri</i> パター ン	URI 全体に一致する Cisco IOS 歩規表現 (regex) パターン。128 文字までです。
---------------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません

コマンド モード

音声 URI クラスの設定

コマンド履歴

リリー ス	変更
12.3(4)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

- このコマンドは、URI 全体に対して正規表現パターンを照合します。
- URI 音声クラスでこのコマンドを使用する場合、**ホスト**、**電話のコンテキスト**、**電話番号**、または **user-id** など、他のパターンマッチ コマンドは使用できません。

例

次の例では、SIP URI 全体にマッチするように音声クラスを設定しています。

```
voice class uri r100 sip
 pattern elmo@cisco.com
```

関連コマンド

コマンド	説明
destinationuri	音声アプリケーションにより提供される宛先 URI との照合に使用する音声クラスを指定します。
host	SIP URI のホストフィールドに基づいて通話を照合します。
着信URI	VoIP dial peerを着信呼び出しの URI と照合するために使用される音声クラスを指定します。
電話コンテキスト	設定されたパターンに一致する phone-context フィールドを含まない URI をフィルタリングします。

コマンド	説明
電話番号	TEL URI の電話番号フィールドに基づいて通話を照合します。
showdialplanincalluri	着信音声通話の特定のURIに一致するダイヤルピア（dialpeer）を表示します。
ダイヤルプラン uri を表示する	特定の宛先 URI に一致する発信ダイヤルピアを表示します。
ユーザ ID	SIP URI のユーザ ID フィールドに基づいて通話を照合します。
voiceclassuri	SIP または TEL URI を含むコールにダイヤルピアを照合するための音声クラスを作成または変更します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。